

21	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109012	自己免疫疾患末梢抗原に対する免疫寛容獲得機構の解明	天谷 雅行 (慶應義塾大学・医学部・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>一部(Dsg4 についての提案)予想を裏切る結果になっているが、これに対しても中止という適切な判断を行っている。研究は、臨床に根ざしながらも基礎研究としての広がりを持ちつつあり、またオリジナリティーも高い。新しいコンセプトを提出しようとチャレンジも見られる。</p>				
22	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109013	食道癌の診療向上のための分子遺伝学および分子疫学的研究	森 正樹 (九州大学・生体防御医学研究所・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究では食道癌症例の集積がまず必要である。初年度は施設ごとの症例登録のための手続きで時間を要した。そのため初年度の登録症例は少なかったが、その後新たな施設も加え、平成18年度は登録症例数が順調に増加している。</p> <p>現在まで、遺伝子解析やアンケート調査による疫学研究成果は示されていないので、その学術的価値の評価や、研究成果の関連分野への波及については不明である。したがって、現時点での研究成果の評価はできないが、研究者の過去の研究実績から判断すると、特に遺伝子解析手技については確立していると推測されるので、症例の集積が予定通りに進めば、研究結果を出すには比較的短い期間で可能ではないかと思われる。</p> <p>また、経費の使用状況についてもほぼ適正である。</p>				